「応援します！！あなたの農業」

地域農業の未来を応援します！
福島県農地中間管理機構

あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第　５７号　　平成３０年１２月

発行元　福島市中町８番２号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

農地中間管理事業推進会議を開催

東北農政局　工藤伸一訟務官の基調講演(福島県農業総合センター)

11月12日（月）、郡山市の福島県農業総合センター多目的ホールを会場に、福島県、福島県農業会議、当公社の３者が主催し、市町村、ＪＡ、土地改良区、関係機関等約200名が一堂に会して、平成30年度福島県農地中間管理事業推進会議を開催いたしました。

午前の部は、実務担当者を対象とした研修会として、遊休農地事務手続き等の見直しや平成30年度機構集積協力金交付事業について、県担当課と公社より説明を行いました。

午後の部では、基調講演として、東北農政局より新たな整備事業として始まった農地中間管理機構関連農地整備事業の活用ポイント、農地中間管理事業５年後見直しなどを情報提供していただき

（一面よりつづく）

ました。

その後、事例発表として三島町産業建設課北舘亮係長から「三島町大登地区における農地中間管理事業活用の取組」、いわき市農林水産部農業振興課関内光市主査から「いわき市瀬戸地区における農地中間管理事業活用の取組について」と題し、農地中間管理事業を積極的に活用した事例を紹介していただきました。

三島町の事例では、町が主体となって地区の耕作放棄地再生に努め、農地中間管理事業と各種補助事業の取組により耕作放棄地を解消することができました。

また、いわき市の事例では、市、県、公社マネージャー３者によるきめ細かなサポートの下、地区でのアンケートや話し合いの場を重ねて作成した人・農地プランに基づき、地区内の農地を集積するとともに、地域の活性化に向けた活動が活発に展開されています。

今回、多くの関係機関・関係団体の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

今後とも県と連携し、農地中間管理事業５年後見直しや新たなる機構集積協力金の補助等の周知に努めてまいります。

事例発表の様子(三島町)

事例発表の様子(いわき市)

平成30年度農地中間管理事業の推進状況について

平成30年度農地中間管理事業の実績は、10月31日現在で表のとおりとなっています。

借入面積及び転貸面積を前年同時期で比べると、借入が73%、転貸が96%となっています。

県と公社では、農閑期である11月から来年１月までの「重点推進期間」に、次年度の営農計画の検討を通じた農用地の集積・集約を更に進めるため、推進会議やセミナーの開催、周知・広報活動を集中的に実施することとしていますので、農業者の皆様をはじめ、関係機関・団体の方々には、この機会に人・農地プランの話し合い等の活発な取組をお願いします。

農地中間管理事業の推進状況(H30.10.31現在)

（単位：ha）

	平成30年度	平成29年度	対　比
借　入	1,171	1,606	73%
転　貸	1,617	1,692	96%

（注）　数値は、４月１日～10月31日の始期ベースです。

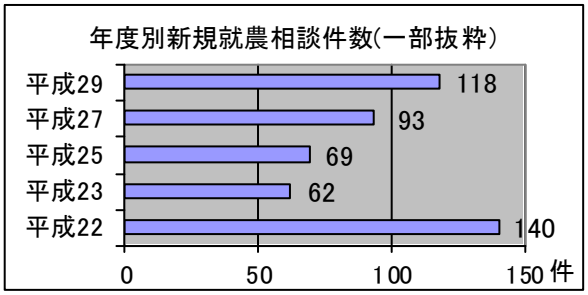
青年農業者等育成センター

就農相談活動の状況について

○就農相談の推移

青年農業者等育成センターは、福島県に就農を考えている方々に対し「福島県新規就農相談センター」として相談活動を行っています。

相談は来訪者への面談や電話、メール、相談会等で行っていますが、取り扱う相談件数は大震災を契機に大幅に減少したものの、現在は震災前の水準に戻りつつあります。



○就農相談会

県外からの就農者を呼び込むため、東京で開催される就農フェア等にも積極的にブースを出展し、主に首都圏にお住まいの方に本県農業をＰＲするとともに本県で就農するためのステップ等について相談に応じています。

東京で開催される大規模な就農フェアである「新・農業人フェア」に毎年継続して参加しているほか、昨年からは移住・二地域居住フェアである「ふるさと回帰フェア」「福島くらし＆しごとフェア」にも参加し来場者に就農相談を行っています。

育成センターの相談ブース

育成センターブースへの来訪者数は、大震災で減少した後、回復傾向にありましたが、ここ数年は求人需要の高まり等もあり横ばいで推移しています。

このような中、相談者の中から準備型の資金や制度資金を活用して本県で研修し、就農するという事例が出てきており、それぞれの経験を生かして地域農業の担い手となることが期待されています。

また、県内においても地域ごとに就農相談会が開催される動きが出てきており、センターとしてはこれらとも連携しながら、福島県での就農に関心を持つ方々に対し、就農相談を通して応援していく考えです。

地域マネージャー便り

「負動産」防止に向けて

福島県農地中間管理機構
県北推進拠点
地域マネージャー　根本（ねもと）　次男（つぎお）

福島市、川俣町を担当して２年半が経過しましたが、農地中間管理事業を推進するに当たり、その地区の状況が表面的ですが少しだけ感じることが出来るようになりました。

農地を所有していても数年も耕作せず、林野化している状況を見ると無力感を感じてしまいますが、農家の方々と接していると農家としての農業の力や集落の協同力が昔と比べて減少していると思います。

耕作条件の悪い圃場が集中している所は担い手も存在せず、新しい担い手の育成確保が喫緊の課題になっています。貸借の相談が来て個別にマッチングが進んでも、ほんの僅かだけ解消されただけで砂漠にこぼしたほんの少しの水みたいなものです。どの農地を誰に集めるかについては、地域の合意がなければ大きく農地は動かないと思います。

これから、一層の実効性のある「人・農地プラン」の策定が求められてきますが、県、市、町、農業委員会、ＪＡ等と定期的に開催している「重点地区推進打合せ会」等を通じて農地情報の共有化と「人・農地プラン」の充実そして地域の話合い、合意形成の下地を作って行きたいと思います。

地域の優良財産である農用地（不動産）が、地域の「負動産」とならないよう、微力ですが頑張ります。

農地中間管理事業を通して 地域の活性化へ

農業生産法人株式会社グリーンカルチャー
代表取締役　五十嵐（いがらし）　伸人（のぶと）(67歳)

「集落の農地を次代に繋ぐために」をモットーに遊休農地解消を目的として、H23年１月に任意組織から会社を設立いたしました。現在水稲50ha、トマト1.1haを作付けしており、今後さらに規模を拡大していく予定です。

当社がある和泉田地区は、南会津町（旧南郷村）に位置し、只見町に隣接している標高460mの中山間地域です。H10年度より経営体育成基盤整備事業により約80haの面工事に取組みました。これを契機に、農業用施設の適正管理及び農用地の有効利用と耕作放棄地の防止に努め、農業振興と農業経営改善を図ることを目的として、H15年３月に「和泉田営農改善組合」が設立され、遊休農地解消のために担い手３名へ農地の集積が図られました。

当時の集積率は53%程であり、現在は80%超える集積率となっております。年々高齢化による離農者が多くなり、地域だけではなく町全体がそのような状況下にあり、担い手不足が深刻な問題となっております。

そのような状況で今後どのように農地を守っていくかが最大の課題ですが、そのためには担い手が耕作しやすい圃場環境を整備していかなければと思います。担い手のいない集落ほど圃場環境が悪く、それでも今の担い手は頑張って耕作をしておりますが、「なんとかしてもらいたい。」というのが本音のようです。

そこで思い浮かび上がるのが“農地中間管理事業“の活動ではないでしょうか。現在は、地域集積協力金などをメインに全国幅広く事業を活用されているようですが、報道によると農地や資材の購入、農地整備など地域と担い手の支援に使われているということですし、今後、担い手への手厚い支援が益々図られるのではないかと考えております。

現在、政府では事業のあり方について、だいぶ審議がなされているようですが、今後、どのような方向に進むかは不透明な状況です。いずれにせよ、将来的に担い手への農地の集積が図られるのは間違いないことであり、担い手への手厚い支援があればこそ、地域全体が自然と元気にそして活性化へつながるのではないかと期待をもっております。

ただ、今後整備されていない地域を整備しようとしても誰一人として手を挙げるひとはいないかと思います。今後少しでも地域の活性化につなげるためにも、町、県、機構が一体となって少しでも多くの農地が整備されていくことを期待したいものです。

編集後記

各地で冬の便りもようやく届き始め、平成最後の冬は、連年より遅い訪れとなった。

この時期になると思い出すのは、私が幼い頃、祖母の冬仕事を手伝ったことだ。

なかでも印象的なのは、会津地方や新潟県などでよく食べられる郷土料理の「打ち豆」を作ったことだ。

打ち豆とは、蒸した大豆を石臼の上で木槌を使って「トンットン」と叩き潰し、乾燥させたものである。主に味噌汁や煮物などに使われ、豪雪地帯の貴重なタンパク源で、保存食として古くから伝えられてきたものだ。

今年は、手伝ったことを思い出しながら「打ち豆」に挑戦し、新しい年への扉を叩きたい。

（小林　豪）

お問い合わせ
あて先　〒960-8681
福島市中町８番２号 福島県自治会館８階
公益財団法人福島県農業振興公社　総務課
ＴＥＬ　024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL http://www.fnk.or.jp
皆さんのご意見・ご感想をお寄せ下さい。